

平成 26 年度九州地区障がい者スポーツ指導者認定校研修会報告書

日時 平成 26 年 12 月 20 日（土）10:00～15:00

場所 九州ルーテル学院大学（熊本市）

主催 日本障がい者スポーツ協会

日本障がい者スポーツ指導者協議会九州ブロック

記録者 永野典詞（障害者スポーツ指導者協議会九州ブロック研修・研究部会）

報告 以下に示す。

はじめに（研修会の概要）

障がい者スポーツ指導者認定校学生の知識・技術向上及び若手指導者の活動実践報告などを学ぶことで資格取得後（卒業後）の活動を活発化、継続化することを目的に研修会を開催した。

参加者は総勢 35 名、内訳は主催校である九州ルーテル学院大学 6 名、西九州大学 23 名、中九州短期大学 6 名であった。実行委員としてブロック長の山口会長、福田事務局長、西日本短期大学の高木先生、西九州大学の山田先生、中九州短期大学の村上先生、九州ルーテル学院大学の永野が参加した。



研修日程は 10:00～（受付）、10:30～午前中の講義として、まず、開講式が行われ、九州ブロック山口会長より開会の挨拶が行われた。次に、①若手指導者の実践発表、②熊本県における障害者スポーツの現状、について発表があった。12:00～13:00 昼食は「ふれあいランチ」と称して、各大学の学生が交流（情報交換など）をできるように工夫・配慮した。13:00～午後からは①スポーツ吹き矢、②フロアホッケーの実技を実施した。

以下に、各講義及び実技について報告する。

1 若手指導者の実践発表

1.1 津田彩 氏（障害者支援施設愛隣館理学療法士）



津田彩氏から、指導員になったきっかけや、熊本県北支部での障がい者スポーツ活動の取組について発表が行われた。県北支部では平成 21 年度からボッチャ、卓球バレー、ツインバスケット、フライングディスクなどのスポーツ教室を開催している。スポーツ教室を通じて、地域の障害者とのつながりを深め、障害のある人にスポーツの楽しさ、喜びを伝えていきたいと報告された。また、障がい者スポーツの認知度を高め障がいの有無に関わらず、家族皆で楽しめる活動を続けていきたいとのことであった。

1.2 内島宏樹氏（熊本障がい者フットベースボール協会事務局長）



内島宏樹氏から「障がい者スポーツとの出会いから学んだもの」と題して報告があった。大学生時代の障がいスポーツの出会いから就職後の活動、フットベースボールとの出会い、熊本障がい者フットベースボール協会（以下、協会と略）の概要について報告された。また、協会発足の経緯から指導員のかかりとして、特別支援学校や地域の事業所などとの練習会、交流大会の開催、地域での体験会などについて報告された。特に内島氏の学生時代からこれまでの障がい者スポーツのかかりについて、障がい者スポーツのボランティアから職場（障がい者支援施設）での取組、障がい者当事者のかかりから学んだことなど、学生にとって学ぶべきところが多くあった。

2 熊本県における障害者スポーツの現状

2.1 辻啓司氏（熊本障がい者スポーツ指導者協議会会長）

熊本県における障がい者スポーツの現状について、熊本障がい者スポーツ指導者協議会会長（以下、協議会と略）辻啓司氏より説明があった。まず、協議会の歴史、役員構成、活動地域・活動種目の紹介があった。主な活動報告として、熊本県障がい者スポーツ大会への取組、全国障がい者スポーツ大会の役員としての役割、ハートフルくまもと大会など、県内外の障がい者スポーツ指導について報告された。

特徴として、熊本障がい者スポーツ指導者協議会では、指導員の活動地域を熊本市、県央、県東、県西、県南、県北の6つの地域支部に区分し活動拠点としている。また、競技専門委員会として、陸上、水泳、卓球、アーチェリー、フライングディスク、車椅子バスケットなど10競技があり、専門的な指導を行っている。各支部、各専門委員会でそれぞれのスポーツ教室が開催されるなど活発な活動が行われている点は興味深く、学生の活躍の場を明示されていた。



3 スポーツ吹き矢（実技）

講師：古閑重矩氏（熊本県スポーツ吹き矢協会会長）



午後からは、古閑氏の指導のもと、スポーツ吹き矢の実技講習を行った。スポーツ吹き矢は、5m～10mの距離からのめがけて矢を放ち、得点を競うスポーツで、腹式呼吸を取り入れた健康効果の高い誰もが取り組むことができるユニバーサルスポーツである。学生はグループを作り、早速、実践に入った。最初は難しく感じていた学生であったが、徐々に呼吸法をマスターし、はじめてとは思えない

上達ぶりであった。スポーツ吹き矢は、はじめての学生も多く、楽しみながら取り組んでいた。学生からは、「簡単と思っていたが、やってみると意外に体力がいる。」「障がい者の方も私たちが補助することで、気軽に楽しめるのでは」「思ったほど矢が飛ばない、難しい」などの声が聞かれた。

4 フロアホッケー（実技）

講師：平山智恵 氏（日本フロアホッケー連盟インストラクター チーム肥後たいしょうず監督）

2つ目の実技は、フロアホッケー体験を行った。4名の障がい当事者（アスリート）もスタッフとして参加していただいた。フロアホッケーはユニバーサルスポーツとして、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、体力や技能のレベルに応じて楽しむことができるスポーツであることが説明された。また、スポーツ指導で大切にしていることとして、①互いの違いを認め合うこと、②1人ひとり、誰もが大切な存在であることに気づくこと、③互いに助け合うこと、の3点が示され、チームに分かれて実践が行われた。実技では、6人1チームで試合形式の練習を行った。途中、講師やアスリートが細かな指示を出しながら指導されていた。参加した学生からは、「使う道具が柔らかく、軽く誰でも取組やすい」「コート作り方など特徴があって競技者がわかりやすいように工夫されていた」などの意見が聞かれた。



5 考察とまとめ

認定校（開催校は認定校ではない）で障がい者スポーツを学ぶ学生が、学生時代から就職後も障害者スポーツにかかわり、活動を継続するための手立てとして毎年開催している。参加者は例年40名程度である。今年も研修に参加した学生は障がい者スポーツの楽しさを実感してもらえたと思う。学生の笑顔が絶えない研修会であった。

講義では、講師の障がい者スポーツとの出会い、現在の障がい者スポーツとのかかわり、活動について実践的な報告が行われた。これから障がい者スポーツにかかわりを持っていきたいと考える学生にとって有意義な講義であったと思う。将来、障がい者スポーツとどのようにかかわり、自分に何ができるのか、誰に相談すればよいのかなど、疑問に答える内容であったと考えている。

また、実技では、大学の授業では学ぶことが比較的少ない、選手を交えた「スポーツ吹き矢」や「フロアホッケー」など、学生にとって新たな障害者スポーツ・レクリエーションを体験することができた。実践では、アスリートの実践を目の当たりにして、障がい者スポーツの印象が変わったと感想を述べる学生もいた。

今後の課題として、認定校研修会の開催運営にあたっては、より多くの認定校学生が参加するための手立てや工夫が必要である。積極的に参加したと思ってもらえるような研修会の企画が必要であろう。

